

	⑮ハナヒカリプロジェクトの開催 ⑯月刊『文藝春秋』11月号巻頭グラビアへの掲載
各課事務連絡	スポーツ課

1. 前会の会議録の承認	(事務局) 8月定例会の会議録について概要説明 → 承認
2. 教育長報告	<p>(教育長)</p> <p>8月の定例教育委員会から今日までの行事等について報告する。</p> <p>19日は、子ども科学体験教室があり、夜ははんだ市民盆踊り大会があり参加してきた。この他にも、夏休み中であり、また、新型コロナウイルス感染症が収まってきた関係で、様々な行事が何年か振りに開催されたり、縮小していたものを元の規模で開催されたりし、多くの人が集まっていた。</p> <p>4年振りの開催となったある地区の盆踊りに行ったところ、非常にたくさんの人が来て盛り上がっていた。ただ、以前と比べていろいろなことが縮小されたり、お店があまり出ていなかったりしたこともあってか、少しがっかりしたように帰っていく人を何人か見た。他の地区がどうかはわからないが、いろいろな面で、手間がかかることを、少し楽にできるような形にしている。できるだけ手間をかけずにやれる方法を考えて、工夫しながらやっているのはわかるが、やはり以前の形に慣れていると、今のやり方に物足りなさを感じるところもある。学校関係の行事でも一緒だが、授業においても「何か子どもたちのためにひと手間かける」とよく言われてきた。そのひと手間をかけることによって、子どもたちが理解を深めることができたり、子どもたちの関係がうまくいったり、そういう成果が出ると言われてきたが、働き方改革などの名のもとに、そういった手間をかけずにやるのが求められてきている。一方で、手間をかけずに同じ効果を得られるにはどうしたらいいかと考えると、実際に効果があるのか、本当に気持ちが伝わっていくのか、確証が持てない。やはり時間をかけたり、泥臭くやっていかないと心が伝わっていかないのではないのかなと思う。ただ、いつまでもそんなことは言っていられず、できるだけ効率よく効果を上げるということを地域の行事でも学校関係でも考えていかなければいけない。今はその過渡期にあると思っている。</p> <p>どちらが正解ということではなく、どちらかだけにするものでもない。効率だけを考えたら普通はやらないが、そこをやってしまう自分がいるというような、そういった人間臭さも子どもたちには持ってほしいと思う。昔ながらの良い部分でもあると思うので、どこかでそういった部分は残しながら、子どもたちにも指導していかなければいけない。昔のやり方を変えていかなければいけない、無駄な部分は省いていかなければいけないと思いつつ、苦しかったけど、大変だったけど、やって面白かったというような、そういう感覚を味わってほしい。</p> <p>20日は、板山小学校の幸せプロジェクト報告会があった。板山小学校の6年生が、総合の時間を使って幸せについて考えて、取り組んだことを市長に発表したいということで市役所の会議室で市長を招待して発表した。他にも、例えば生徒会サミットで、乙川中の生徒たちが山車まつりのPR動画を作って発信していきたいと取り組んでいたり、いろいろな学校が、今半田市がテーマにしていることや話題になっていることについて、総合などの授業で取り組んでくれて、報道機関提供をしたり、発信する機会を作っており、子どもたちが人前に出る機会が増えてきてありがたいと感じる。乙川中の山車まつりのプロジェクトに参加している子たちは、明日、山車まつりの決起集会で司会を務めさせていただくと聞いている。ぜひ他の学校にも、こういった場に積極的に出るよう働きかけをしていきたい。</p>

	<p>24日は、半田市の教育講演会にて工藤先生の話があった。皆さま方もご出席ありがとうございました。話を聞いて、とても新鮮だった。同じようなことやっていても、やはり奥に何があるかなど、口で言うだけではなく実践を積んだからこそその言葉だと思う。もう一度呼んでほしいという声をたくさん聞いているが、ぜひこういった取り組みを今後の半田市の各学校教育に生かしていけたらいい。</p> <p>28日は、中学生の全国大会出場市長報告会があった。例年よりも少なかったが、それぞれ頑張っている子たちがいて、今後も応援していきたい。今回報告に来た子ではないが、青山中から市立船橋高校へ進学した角皆（つのがい）君は、インターハイの体操競技で個人総合優勝した。同じく岡田君は4位。2人を含む団体も総合優勝。こうして半田市から出て行った子が高校へ行ってもいろいろな場で活躍していると聞くと非常に嬉しいし、ありがたいなと思う。</p> <p>また、他にも表敬訪問として、乙川中出身のダンスの世界チャンピオン、プロレスのチャンピオンが来た。そのようにして、自分の活躍の場をどこかに求めて一生懸命やっている人たちはいいなと感じた。</p> <p>28日は、日本福祉大学附属高校との懇談会があった。これは、附属高校が美浜町にある縁で、美浜町・南知多町・武豊町・半田市の中学校の校長先生が懇談をするものである。せっかく知多半島にある学校ということで、私立公立関係なく、日本福祉大学としても知多半島を盛り上げていきたいという思いを持って誘ってくれているよう。部活動では、野球、吹奏楽、サッカー、陸上など強化をして盛り上げてくれており、知多半島の子どもたちが名古屋のほうへ行かずに、地元に近いところで活躍をしている。ただ、社会福祉学部が美浜町からキャンパスを移転させることに伴い、約400人の学生が東海市のキャンパスに通うことになってしまったことは、少し残念だったと伝えた。とは言え、あくまでも本部は美浜であり、また、教育関係、子ども発達関係、スポーツ関係は美浜町にあるため、引き続き福祉関係も含めてうまく交流していけるといい。</p> <p>なお、日本福祉大学とは連携協定を結ぶ話もあり、いろいろな面でうまく活用できればと思っている。</p> <p>9月9日は、山本悦子読書感想画表彰式に出席した。山本悦子さんは亀崎出身の童話作家で、南吉童話賞の選考委員にもなっている元教員の方。このコンクールは、今回初めての開催となるそう。先ほど表敬訪問に来てくれたと伝えた方たちも含め、こういった地元出身の人たちを積極的に活用して、出身校を中心に交流を深めながら、盛り上げていくといいと感じた。</p> <p>12日は、中学生の広島平和ツアー報告会が開催された。毎年2つの学校から4人ずつ8人、市の平和事業の一環として広島に連れて行ってくれるもの。興味があったり、何らかの関心を持って、手を挙げて立候補して、さらに学校の中で選考会があって行った子たちであり、とても感動して帰ってきた様子を発表してくれた。現場を見る、こういった経験も、子どもたちによって感じるところが全然違うなと思った。</p>
<p>3. 議題 ■ 報告事項 1) 令和5年9</p>	<p>(教育部長)</p> <p>9月の定例会の一般質問のうち、教育委員会に関する質問について報告する。</p>

月半田市議会定例会について

チャレンジはんだの伊藤正興議員からは、主題「ラーケーションについて問う」、要旨1「半田市におけるラーケーションについて」、質問の1点目として半田市としてラーケーションの導入に至る経緯を教えてくださいというもので、答弁としては、本年3月、愛知県より、県の提唱する「休み方プロジェクト」の取組の一つとして、「ラーケーションの日」創設に係る情報提供があり、4月に意向調査が実施されたが、本市としては、その時点では、令和6年度以降の導入を念頭に「検討中」と回答をした。その後、6月に県から再度の要請を受け、県内のほとんどの市町村とともに、本市においても導入を決定。7月に各学校への説明を行い、学校を通じて保護者へリーフレット等を配布、案内をしたと説明した。

質問の2点目として、ラーケーションのメリットとデメリットに関してはどのように考えていますかというもので、答弁として、先ずメリットとしては、勤務体系などにより土日休みでない方が、平日の休みの日に本制度を利用することで、子どもと一緒に校外学習を行うことができること、また、デメリットとしては、平日に休むことで授業や行事に参加できなくなるなど、家庭の状況によって取得できる子とできない子が出てくることなどを考えていると説明した。

質問の3点目として、ラーケーションに期待することは何ですかというもので、答弁として、本市としては、特に、土日休みでないため、普段子どもと一緒に過ごす時間を確保できない方などが、本制度のメリットとデメリットを踏まえ、効果的に活用することで、親子のふれあいを深め、学びの幅を広げる機会としていただくことを期待していると説明した。

要旨2「児童、生徒、保護者の誘客に向けた取り組みについて」、質問の1点目として、ラーケーション効果による誘客の為にどのような準備がされてきましたか、また、その効果をどのように考えていますかというもので、答弁として、誘客の準備については、半田市立博物館、新美南吉記念館、半田空の科学館、半田赤レンガ建物などの市内の文教施設や観光施設では、現時点で「ラーケーションの日」を意識した受入れに関する取り組みや、積極的な周知広報は特段行っていないが、学びに関する展示や企画展、各種講座の開催、校外学習の受入れ等、日ごろより学びの場としてラーケーションにも対応した運営を行っている。誘客の効果については、「ラーケーションの日」に児童、生徒と保護者が市内の文教施設や観光施設に会場し、半田市の歴史文化等を学習することは、市内の方においては郷土愛の醸成につながる他、市外の方においては「歴史と文化のまち半田」の認知度やイメージ向上など、シティプロモーション効果が期待できる。また、食事等の観光消費に伴う経済効果も見込むことができると考えていると説明した。

質問の2点目として、半田市も誘客に向けて積極的にチャレンジすべきと考えますが見解を伺いますというもので、答弁として、半田市内には、民間も含めて文教施設や観光施設が数多く存在する。このため、「ラーケーションの日」という新たなテーマを用いて、それらの施設を活用した誘客を図ることは、本市の観光振興の観点においても有益であると考え。今後は、各施設からの情報発信だけでなく、例えば観光協会のホームページにラーケーションスポットを集約してPRするなど、効果的な広報に取り組んでいく。また、「すし」や「カブトビール」といったラーケーションとつながるグルメを併せて紹介することで、飲食、物販等の観光消費の拡大を図っていくと説明した。

主題「中学校部活動改革について問う」、要旨 1「中学校部活動改革の取り組みについて」の質問の 1 点目として、半田市の中学校部活動改革の目的と内容を教えてくださいというもので、答弁としては、近年、中学校部活動については、全国的に、少子化の進行により従来と同様の体制で運営することが難しくなっている状況にあり、また、部活動が教員の長時間労働の要因の一つとなっていることも大きな課題となっている。そのため、文部科学省は、学校と地域が連携・協働して中学校部活動改革に取り組むことの必要性を提唱、その後、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を公表し、3 年間の改革推進期間を設けて、地域の実情に応じた中学生のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図ることが重要であると示した。このような背景のもと、半田市においても、中学生の持続可能なスポーツ・文化芸術活動の環境整備と教員の働き方改革の推進を目的に、中学校部活動改革を実施することとした。その主な内容は、令和 6 年 9 月より、学校部活動は平日のみとし、土日祝日は実施しないこと、土日祝日にスポーツや文化芸術活動への参加を希望する中学生には、地域での活動に参加できるよう体制整備を進めること、また、学校部活動としての大会等への参加は、原則、「知多地方中学校体育大会」、「吹奏楽コンクール知多地区大会」、「NHK 全国学校音楽コンクール」、及び、これらの上位大会のみとすること、としていると説明した。

質問の 2 点目として、地域のスポーツクラブや文化活動団体との受入調整は進んでいますか。現状を教えてくださいというもので、答弁として、半田市の中学校部活動改革の実施に向けて、地域のスポーツクラブ、半田市スポーツ協会及び文化協会等とは、令和 4 年度から生徒の受入に必要となる運営体制の整備などについて継続的に協議を行っている。協議を通じて、指導者や活動場所の確保など各地域団体等の個別の課題が明らかとなり、具体的な支援の在り方について検討を進めているところである。また、地域のクラブや団体等としての出場が認められる大会の選別や主な活動場所となる学校体育施設等の管理方法や備品等の運用方法についても調整を行っている。これらの協議や調整を通じて、各団体等においても自主的に課題解決に向けて動き出しているところもあり、半田市スポーツ協会においては、課題解決を目的とした「中学校部活動改革に係る検討部会」を設けている。半田市としては、こうした部会とも連携を図りながら、生徒が引き続きスポーツ及び文化活動に参加できる体制等の構築を進めていくと説明した。

質問の 3 点目として、休日の部活動を廃止したのち地域での活動に、どれくらいの生徒が参加すると想定していますかというもので、答弁として、昨年 10 月に実施しました、市内の小学校高学年から中学校までの児童生徒、及びその保護者を対象としたアンケートの結果から、およそ 5 割から 7 割の生徒が地域での活動に参加することを想定していると説明した。

質問の 4 点目として、中学校部活動改革に伴い保護者の経済的負担は増加しますかというもので、答弁として、現在、中学校の部活動については、教員が指導を行っているため、土日祝日の活動においても、保護者の方に負担いただく指導者謝金などの費用はない。しかし、中学校部活動改革により、今後、地域での活動に中学生が参

加する場合は、活動団体の運営費や指導者謝金などが必要となるため、これらの費用等を保護者の方に負担いただくこととなると説明した。

質問の5点目として、今後、中学校部活動改革に期待することは何ですかというもので、答弁として、半田市としては、中学校部活動改革により、中学生が、平日の学校部活動とは別に、自らの興味関心に基づき、多様な選択肢から土日祝日の活動を選ぶことができるようになったり、今まで以上に専門性の高い指導を受けられるようになったりすること、また、地域において、地域の活動団体の活性化が促進されること、さらに、学校においては、教員の働き方改革につながり、学校教育の質の向上が図られること、などを期待していると説明した。

創造みらい半田の竹内功治議員からは、主題「家庭で一緒に体験や探求の学びの活動を行う新たな取組みについて」、要旨1「「ラーケーションの日」や「県民の日学校ホリデー」の実施について」、質問の1点目として、「ラーケーションの日」や「県民の日学校ホリデー」を実施することによる、メリットやデメリットをどのように考えていますかというもので、答弁として、まず、「ラーケーションの日」については、メリットとして、勤務体系などにより土日休みでない方が、平日の休みの日に本制度を利用することで、子どもと一緒に校外学習を行うことができること、また、デメリットとして、平日に休むことで授業や行事に参加できなくなること、家庭の状況によって取得できる子とできない子が出てくること、などを想定している。次に、「県民の日学校ホリデー」については、メリットとして、保護者の有給休暇の取得を促し、ワークライフバランスの充実が図られること、また、デメリットとして、共働き家庭などにおいては、両親とも仕事が休めないときに子どもの居場所対策が必要となること、などを想定していると説明した。

質問の2点目として、児童生徒、保護者には、どのように取組みの内容の説明と案内を行っていますかというもので、答弁として、「ラーケーションの日」、「県民の日学校ホリデー」とともに、学校を通じて、各家庭にリーフレットなどを配布し、制度の趣旨や活動事例、注意事項等を説明・案内するとともに、各学校のホームページに関連資料を掲載し、周知・広報を行っている」と説明した。

質問の3点目として、今年度は2日取得できる「ラーケーションの日」の活用を促すために、どのような対応や対策を考えていますかというもので、答弁として、「ラーケーションの日」については、先ほどお答えしたとおり、平日に休むことで授業などに参加できなくなることや、家庭状況により取得に差が生じるなどのデメリットもあるため、特に活用を促すための取組は行っていない。しかし、「ラーケーションの日」を取得する場合には、半田市内には、半田市立博物館、新美南吉記念館、半田空の科学館、半田赤レンガ建物など、学びの場としてふさわしい施設がありますので、これらの施設の利用をPRしていく」と説明した。

質問の4点目として、取組みの目的の中では「ラーケーションの日」や「県民の日学校ホリデー」を行うことで、保護者の有給休暇の取得の促進を考えているとのこと。ぜひとも子育て家庭の教職員や市職員の方々に積極的な利用を求めたいですが、如何ですかというもので、答弁として、教職員や市職員の有給休暇については、今後とも、積極的に取得を促していく。特に、「県民の日学校ホリデー」に関しては、広く周知・広報を行っていく。しかし、「ラーケーションの日」については、先ほどお答えしたとおり、特に取

得促進を図ることは考えていない。本制度は、メリットとデメリットを踏まえ、親子でよく話し合い、適切に判断した上で、効果的に活用していただきたいと考えていると説明した。

志民ネットの小出義一議員からは、主題「魅力あふれる学校給食の実施について」、要旨1「新学校給食センター建設について」、質問の1点目として、現在の学校給食センターについて、施設面・衛生面など抱えている課題をお聞かせ下さいというもので、答弁として、本市には、第1、第2の二つの学校給食センターがあるが、いずれの施設も大変老朽化が進んでいる。そのため、設備や機器の故障により、調理業務に支障が生じないよう、保守点検や緊急修繕を行い対応しているが、修繕に係るコストは年々増大しているのが現状である。また、学校給食センターは、災害発生時に、被災された方々への炊き出しの拠点として、重要な役割を担っているが、現在の施設は耐震基準を満たしておらず、その役割を果たせないことも懸念している。衛生面については、学校給食の衛生管理は、「大量調理施設衛生管理マニュアル」や「学校給食衛生管理基準」に基づき行う必要があり、本市においても、この基準に則した運営を行っている。しかしながら、現在の学校給食センターでは、構造上の問題から、年々高度になる最新の基準に完全には対応できておらず、改善が必要な状況であると説明した。

質問の2点目として、抱える課題で対応に努めている内容と対応出来ていない内容についてお聞かせ下さいというもので、答弁としては、抱える課題で対応に努めている内容については、学校給食衛生管理基準では、学校給食センターは、泥やほこりなどの異物が付着した食品を扱う「汚染作業区域」と調理場や配膳室などの「非汚染作業区域」を部屋単位で明確に区分することとされている。しかしながら現在の学校給食センターは、建設当時の基準に基づく間取りであるため、部屋単位での区分がされていない。このため、汚染作業区域と非汚染作業区域の間に仕切り板を設置することで対応している。次に、対応出来ていない内容ですが、現在の学校給食センターの床はウェット仕様となっている。グレーチング等の排水設備に水が溜まると菌の繁殖の原因となるため、床が水で濡れないよう常に注意を払って運用しているが、望ましい状態ではない。また、調理場内には空調設備がなく、異物混入を防ぐために窓を開けられないため、夏は猛烈な暑さになり、調理員の体調管理も切実な問題である。このような課題がある中、より一層、職員一人ひとりが安全意識を高く持つことで、事故なく安心安全に給食の提供をしていると説明した。

質問の3点目として、新学校給食センターの建設によって上記課題はどの様に解消されるのかお聞かせ下さいというもので、答弁として、新しい学校給食センターは、老朽化に伴う施設、設備の故障といった問題が解消されるほか、最新の学校給食衛生管理基準を、現在の施設より高い水準で満たす施設、設備となる。汚染作業区域と非汚染作業区域の区分については、現在の仕切り板による対応から、部屋ごとに明確に仕切られる間取りに変わり、調理場は、床に水を流さないドライ仕様とすることで、より衛生的に管理することができる。また、空調設備を設けることで、調理場内の温度と湿度が適切に保たれ、従事する調理員の労働環境も改善される。更に、アレルギー対応食専用調理室や食材の検収室などの施設整備に併せ、調理機器などの設備を一新することで、子どもたちに、より安心・安全でおいしい給食を届けることができるようになる」と説明した。

要旨 2「食物アレルギー対応について」、質問の 1 点目として、食物アレルギー対応における基本的な考え方をお聞かせ下さいというもので、答弁として、本市の学校給食事業は、食物アレルギーのある子どもたちに対しても、できる限り給食を提供することを原則としている。すべての子どもたちが等しく給食を楽しむことで、学校生活を豊かなものにすることを目指している。しかしながら、食物アレルギーは誤った対応が命に係わる危険を伴うため、本市では安全性を最優先に考え、食物アレルギーのある子どもたちに対しては、対象となるアレルゲンを含む料理については、数量に関わらず提供しないこととしている。また、学校給食における食物アレルギーの対応は、個人の裁量に任されるものではなく、組織的なアプローチが不可欠である。そこで昨年度、医療関係者や保護者代表等で構成される「半田市食物アレルギー対応委員会」を設置し、学校給食における食物アレルギーへの対応を組織レベルで取り組むこととした。この委員会において、安全な給食環境を提供するためのガイドライン策定や情報共有を行い、子どもたちが安全に給食を楽しめるよう努めていくと説明した。

質問の 2 点目として、現在実施しているアレルギー対応についてお聞かせ下さいというもので、答弁として、学校給食において、食物アレルギーの対応が必要な子どもたちについては、希望に応じて面談を行い、個別の対応方法を決定している。現在行っている主な対応として、1 つ目は、アレルギー食品の使用状況を記した献立表の配布である。消費者庁が示す食品表示基準において、表示が義務化または推奨されているアレルゲン 28 品目の使用状況が分かる表を、毎日の献立ごとに作成している。2 つ目は、牛乳が飲めない子どもたちに対する調整豆乳に切り替えての提供である。3 つ目は、乳除去食の提供である。調理過程において、アレルゲンとなる乳製品を使用しないことを指すが、現在は、通常給食の献立作成の段階から乳成分を使わないメニューを立案することで対応している。4 つ目は、食物アレルギーにより食べることでできない食品分の給食費返金である。返金の対象となる食品は主食であるパン、麺、ナン及び飲用牛乳である。5 つ目は、アレルゲンを含む食材を使用した料理を配膳しない対応である。この場合、希望される方には、弁当を持参していただいている。今申し上げた 5 つの対応とは別に、そば、ピーナッツ、キウイフルーツ、クルミ、カシューナッツは原材料として給食では使用しないほか、加工品は、アレルゲンとなる食品の少ないものを優先して選定するなどし、食物アレルギーのある子どもたちも一緒に食べられる献立の作成に努めていると説明した。

質問の 3 点目として、現行施設で課題としている内容と今後の対応についてお聞かせ下さいというもので、答弁として、現在の施設では、専用のアレルギー食調理室が備わっていないため、空気中の微小な粒子などによるアレルゲンの混入を完全に防ぐことが難しい状況である。また、アレルギー食材専用の冷蔵庫が設置されていないため、食材の保管は通常の食材と同じ場所で行わなければならない。このような制約のもと、食物アレルギーに対応したメニューを拡大することは大きなリスクを伴う状況である。新しい学校給食センターでは、こうした課題に対処するために、一般調理室とは壁で仕切られ、完全に独立した「アレルギー食専用調理室」を設ける。この専用調理室では、アレルゲンを一切持ち込むことなく調理を行うことができるようにし、専用の調理器具を使用してアレルゲンの混入を徹底的に防ぐ。この改善により、現在提供している乳除去食のみなら

ず、今後はさらに安全性を重視しつつ、さまざまな食物アレルギーに対応したメニューの提供を拡大していく計画であると説明した。

要旨3「食文化の醸成と地産地消について」、質問の1点目としては、地元食文化への愛着を醸成するうえでの学校給食の役割についてお聞かせ下さいというもので、答弁として、子どもたちを取り巻く社会環境は大きく変化し、食生活の多様化や風習を継承する場の減少などにより、子どもたちは、地場産物や季節料理などの食文化に触れる機会が少なくなっている。そのような中、地元で生産される多彩な食材を実際に味わいながら、食文化を学ぶ機会を提供することが、学校給食の重要な役割であると説明した。

質問の2点目として、地産地消の推進についてお聞かせ下さいというもので、答弁として、学校給食の食材は、必要な時期に確実に納品できるものを価格や品質などを比較検討し選定しているが、そのような中においても、産地に配慮した食材を積極的に採用し、地産地消の推進を図っているところである。特に、昨年度以降、半田市産の食材を購入するための費用を新たに予算計上した。これによって、これまで以上に、特定の地域で作られた食材を選ぶことができるようになり、地産地消率の指標である県内産食材の割合は、令和3年度は38.64%だったが、令和4年度は44.67%にすることができた。今後においても、学校給食に地元産の食材を積極的に取り入れ、地産地消の推進に取り組んでいくと説明した。

要旨4「調理方式と調理委託について」、質問の1点目として、センター方式を採用し調理を委託している理由についてお聞かせ下さいというもので、答弁として、学校給食の調理においてセンター方式を採用している理由としては、一箇所ですべての給食を作るため作業効率が良く、人件費や施設設備の維持管理費を抑えられることや、食物アレルギーの対応や衛生管理、調理員の研修等を一元的に管理できること等のメリットがあるためである。次に、調理を委託している理由としては、外部の給食業者へ委託することで、栄養管理や調理において専門的な知識と経験を持つ人材を集めやすいことや、人件費の抑制が見込まれる点、複数箇所ですべての事業を展開している業者が多いことから、ノウハウが豊富でリスクマネジメントに優れているという点が挙げられると説明した。

質問の2点目として、委託業務の内容と質の確保についてお聞かせ下さいというもので、答弁として、委託業務の内容については、調理業務を始め、納入された食材の点検、食器や調理器具の洗浄・消毒など多岐に渡っている。また、委託業務の質の確保としては、調理に従事する者について、委託業務が円滑かつ適正に遂行できるよう、業務責任者や副責任者、栄養士や食材点検責任者を必ず配置することとし、それぞれの職責には経験年数等一定の条件を満たす者を充てることを求めるほか、研修の受講により、調理員の資質向上に取り組むことを義務付けていると説明した。

質問の3点目として、安全性を確保するために委託先に求めている内容についてお聞かせ下さいというもので、答弁として、委託業者には、愛知県教育委員会が作成した「学校給食の管理と指導」の規定に基づき、調理作業を衛生的かつ効率的に行うため、作業工程表と作業動線図を献立ごとに作成することを求めており、それらの内容を給食センターが事前に確認した上、当日の調理にあたっている。また、学校給食衛生管理基準に基づき、日常点検票を毎日作成し提出するよう求めている。これは、毎日

の調理施設や設備の状態、調理員の健康状態や服装、作業の実施状況等について、作業前、作業中、作業後に分けてチェックを行い記録するものである。さらに、調理員の健康管理として、全員に定期健康診断を年 1 回以上受診させるとともに、月 2 回以上の検便検査を実施するよう指導している。その他にも、安全・衛生管理については、自社の安全衛生マニュアルのほか、大量調理施設衛生管理マニュアル、学校給食衛生管理基準等、各関係省庁が公表するマニュアルや、関係諸法令及び通知を遵守し、業務にあたることを求めていると説明した。

創造みらい半田の山本裕介議員からは、主題「半田のまつり文化」を「持続可能な文化」にしていくために、要旨 1「半田のまつり文化」を持続可能にするために現在実施されている半田市での取組と今後について、質問の 1 点目として、「半田のまつり文化」を持続可能にするために実施されている、半田市の取組を教えてくださいというもので、答弁として、半田のまつりと言えば、春に各地域で行われる祭礼が連想され、お囃子の高らかな音色とともに華麗な山車が曳き廻される光景は春の風物詩の一つとなっている。しかし、各地域の祭礼の中心となっている山車を保存・継承していくには多大な経費を要することから、山車組に対し、山車保存伝承費補助金や文化財保存修理事業補助金として山車の保存や修理、保護に要する経費の一部を補助金として交付することで、山車組の負担軽減を図るとともに市民の貴重な財産でもある文化財やまつり文化が後世に伝承されるよう取り組んでいると説明した。

質問の 2 点目として、「半田のまつり文化」というシビックプライドを醸成するための半田市の取組を教えてくださいというもので、答弁として、半田市には、山車、蔵、南吉、赤レンガなど歴史・文化を受け継ぐ、市民が誇れる魅力ある資産があり、その中の 1 つ有形民俗文化財である山車は、市内 10 地区の春祭礼で曳き廻されている。山車は使用していないが、子どもみこしなどにより町内練り歩きをしている祭礼もあり、多くの市民が楽しみにしている。また、博物館では、祭礼・まつり文化を身近に感じられるよう、有形民俗文化財である本物の山車を常設展示するとともに、山車組との協働により、展示している山車やエントランスでお囃子やからくりの上演、解説を行っている。その他にも、実際に文化財を所有している団体に、所有している文化財の特色や価値、保存継承等の苦労話などの講演も計画し、市民がまつり文化を学ぶ機会を提供している。さらに、今年 10 月には「第九回はんだ山車まつり」が開催され、市内 31 輻の山車が一堂に集結する。これは半田のまつり文化を市内外に発信する場でもあり、このはんだ山車まつりの開催自体もふるさとへの誇りと愛する心を育む、シビックプライドの醸成に着実につながっている。今後も、山車を始めとするまつり文化の保存・継承に努めるとともに触れる機会や学ぶ機会を拡充することで、まちへの愛着と誇りの醸成を図っていくと説明した。

質問の 3 点目として、「半田のまつり文化」を持続可能にするためには、小・中学生から「まつり文化」に触れる機会を増やしていくべきと思いますが、現状はいかがでしょうかというもので、答弁として、半田市では、小学校、中学校ともに社会科の授業の一環として、半田市の伝統文化について学ぶ機会を設け、「各地区の祭り行事」や「半田の山車」についての調べ学習などを行っている。また、学校によっては、総合学習の時間に地元山車組の方に出席講座をお願いしたり、文化祭行事として小型の山車の引き廻し

やお囃子の舞台演奏を行ったり、多彩な取組を実施している。特に、今年は、市内の全ての中学校の生徒会役員が一同に会する「生徒会サミット」において、「半田市をよりよくするための取組」の一つとして、「第9回はんだ山車まつり」のPR動画を生徒主体で作成することが決定され、現在、生徒たちと祭り関係者などとの調整が進められている。動画は、生徒たちの「ふるさと半田」を思う気持ちと、「はんだ山車まつり」に対する期待がたくさん詰まったものとなる見込みであり、完成後は、半田市の公式Instagramなどにより、広く「はんだ山車まつり」のPRに活用される予定である。今後も、多くの祭り関係者の皆さんと協力しながら、さらに充実した取組となるよう進めていくと説明した。

(新美委員)

ラーケーションのことを2人の議員が質問しており、答弁として、半田市としても博物館などの施設へ誘客するとあったが、どのようにPRするのか。

(学校教育課長)

ラーケーションの目的は、親子で学びを深めるということであり、学びに繋がる施設があるということ、半田市の子に限らず他市町の子が来てくれるよう積極的にPRする。

(新美委員)

市外の子たちへのPRはどのようにするのか。

(学校教育課長)

愛知県がHPにラーケーションのポータルサイトを開設しており、ラーケーションとして活用するにふさわしい施設として一覧にして紹介している。現在、新美南吉記念館と、半田市の観光課が載っている。観光課のページは、ラーケーションとしてふさわしい施設を載せられるよう検討している。

(正村委員)

保護者の方の声を聞くと、ラーケーションと11月24日の県民学校ホリデーの違いを理解できていない方が一定数いると思う。

(教育長)

様々な場面で周知していきたい。

(教育部長)

最後の山本議員に対する答弁で、生徒会サミットにおいて第9回はんだ山車まつりのPR動画を乙川中学校の生徒が作成すると説明している件について、この場を借りて紹介する。2種類あり、30秒のInstagram用と、2分40秒のホームページ用がある。

－乙川中学校生徒作成の山車まつりPR動画視聴－

(指導主事)

中学生が取材交渉をして、C A C から映像を提供してもらい、動画の編集もすべて中学生が行っている。

山車まつり当日も取材に行き、山車まつりが終わったあと記録動画を作成し、いろいろなところで流したいと考えている。

(新美委員)

新聞社に取材に来てもらう予定はあるか。

(指導主事)

中日新聞には、すでに動画を作っている様子取材していただいた。10月になったら、山車まつりの記事を書けるそうだが、そのうちの1回として考えてくれているよう。

(正村委員)

すごく上手にできているが、中学生らしさがあるといい気がする。

(新美委員)

子どもたちが映像を撮っていたり、動画を編集している姿を別のカメラで撮ったものがあったらいい。

子どもたちが制作したことは、動画のどこかで出てこないのか。

(指導主事)

別のカメラでも撮っている。子どもたちは、テレビで流れるような本物に近い動画を作りたいと非常にこだわりを持って、C A C の方に角度や大きさなど真剣に聞きながらやっているから、中学生らしさは出にくいかもしれないが、制作者については動画の最後に載せようと考えている。

(桂委員)

各小中学校へ提供する際には、制作にかかわった子たちの感想やコメントなどがあると、それを見た子たちが自分たちも何かやれるのではないかと感じたり、すごく可能性の広がることだと思う。

(指導主事)

生徒会サミットの狙いとして、よりよい半田市のために、各学校のP R 動画を作りたいという話が出ている。次は12月に開催されるが、今回の制作過程を伝え、報告できたらいい。

(教育長)

とてもいい活動をしているので、他の学校にもいい形で広がっていくといい。

<p>2) 寄附・後援 願等について</p>	<p>(学校教育課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 団体より寄附。 (内訳：航空関係図書、澤田ふじ子・澤田瞳子・新美南吉著作の図書、岩滑サブレ、ベラルーシの子どもが描いた南吉童話の感想画) ・1 件の共催事業を許可。 ・17 件の後援名義を許可。
<p>3) 児童生徒 (園児)の交通 事故・問題行動 等について (非公開)</p>	<p>(指導主事)</p> <p>令和5年8月11日～9月14日の交通事故・問題行動等について。</p> <p>交通事故：3件 8月9日(水) 1件 8月18日(金) 1件 9月7日(木) 1件</p> <p>問題行動(被害)等：1件 9月3日(日) 1件</p> <p>交通事故以外の事故：4件 8月28日(月) 1件 9月7日(木) 1件 9月8日(金) 1件 9月14日(木) 1件</p> <p>学校等被害：0件 不審者情報：1件 8月26日(土) 1件</p> <p>(正村委員)</p> <p>半田病院ではなく、あいち小児保健医療総合センターに搬送されるケースが多いように感じるが何か理由があるのか。</p> <p>(指導主事)</p> <p>症状ではなく、半田病院が満床で受け入れができないケースが増えているとは聞いている。</p>
<p>4) 令和5年度 全国学力・学習 状況調査 半田 市の結果について</p>	<p>(指導主事)</p> <p>令和5年度全国学力・学習状況調査(半田市の結果)について、以下のとおり報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経過及び今後の予定 2 調査の目的 3 調査対象 4 調査内容 5 半田市の学力結果 6 半田市の児童・生徒質問紙の結果

	<p>7 半田市の学校質問紙の結果 8 学力向上対策</p> <p>(堀崎委員) 学習改善の視点について、解決したくなるような学習課題の設定はとても大切だと思うが、これをどのように深めていくか。 私もいろいろな学校に入らる中で、この点について子どもの視点に立って学習課題を設定しなければいけないと指導するが、なかなか進まない。</p> <p>(指導主事) 私も各学校を回らせていただいているが、各学校が重視しているものの一つに振り返りを挙げ、同時に課題としている学校が多くなっていると感じる。 その振り返りにおいて、子どもたちの中から湧き出てくる疑問や課題を大切にして、それをもとに次の時間の授業課題を設定していく。1回の授業だけではなく、単元全体を見ながら構成していくことを引き続き指導していきながら、学習課題の設定に繋げていきたいと考えている。</p> <p>(堀崎委員) 具体的には教務主任者会で伝えていくのか、校長会で伝えていくのか。あるいは両方なのか。</p> <p>(指導主事) 両方で伝えていきたい。各学校を回ったときに、各学校にも伝えていきたい。</p>
<p>5) 令和5年度 第6回教育講演 会アンケート結果 等について</p>	<p>(指導主事) 当日アンケートの結果について、満足度は、大変満足と満足を合わせて98%と、非常に高い結果となっている。 次に、その理由は、上位3つの「発想の転換が求められている理由がよくわかった」「当事者意識をもたせることの大切さがわかった」「子どもたちにどのような力を育てなければいけないのか明確になった」は有効回答数の半分以上の方が選択している。 今課題と考えていることとして、3つに絞って選択してもらった。最も多く選択された「子どもの主体性」については、講演会の話聞いた直後という影響もあると思うが、先生方がどのようなことに課題意識をもっているかがわかった。 このアンケート結果も踏まえながら、来年度の教育研修会や、今後の講演会等について検討していく。</p>
<p>6) 上池公民館 職員(主事)の 異動について</p>	<p>(生涯学習課長) 上池公民館主事の伊藤尚武氏が、自己都合により7月末をもって退任された。後任として、8月1日付で丸山勲氏を選任し委嘱したので報告する。 丸山氏は、昨年度2カ月間、主事を任せていただいた。今回も急なことであったため、次の方が決まるまでの間、お願いしている。</p> <p>(新美委員) 上池公民館は、よく主事の方が代わられる印象がある。前の方も6か月程度だったと記憶している。</p>

	<p>同じような理由で辞められるのか。</p> <p>(生涯学習課長)</p> <p>原因のすべてかは分からないが、同じような理由があるとは聞いている。効果的な解決策があるわけではないが、館長と協力して取り組んでいきます。</p>
7) あいちウィークに合わせた観覧料の減免について	<p>(新美南吉記念館長)</p> <p>11月のあいちウィークに合わせた観覧料の減免についてご報告する。</p> <p>愛知県が定めた11月21日から27日の「あいちウィーク」にあわせて、半田市では11月24日(金)を小中学校の休業日とすることは、以前学校教育課よりご報告した。</p> <p>新美南吉記念館及び生涯学習課所管の半田空の科学館では、この機会を活かし、子どもが家族と共に地域の自然、歴史、文化などに触れることを支援し、施設利用を促進するため、同日の南吉記念館観覧料とプラネタリウム観覧料を減免し無料とする。市民・県民は問わない。なお、半田赤レンガ建物でも同様に同日の展示室観覧料を減免する。</p>
8) 新美南吉生誕110年広告の名鉄電車中吊り掲出について	<p>(新美南吉記念館長)</p> <p>新美南吉生誕110年広告の名鉄電車中吊り掲出についてご報告する。</p> <p>生誕祭を終え、新美南吉生誕110年も折り返しを過ぎたところだが、これからごんの秋まつりもあり、年末まではまだまだ生誕110年という機会を活かし、南吉のPRに努めていく。</p> <p>そこで、彼岸花シーズンにあわせて、ご覧の中吊り広告を名鉄電車の車内に掲出する。これは名古屋鉄道が地域貢献枠として協力してくださったもので、現物を提供するだけで掲出料は無料になっている。</p> <p>枚数は3000枚、9月15日から10月14日まで名鉄全線の車輦に掲出される。</p>
9) 各種事業について ① 聴いて！知って！楽しむ！大人の音楽授業	<p>(生涯学習課長)</p> <p>セントラルの山本雅士氏を講師に、オーケストラで使用される楽器を深く知ろうをテーマにした大人向けの音楽授業第2弾である。7月15日に第1回を開催し、定員40名のところ40名申込があった。1時間の授業だったが、受講者は楽しそうに興味深く山本氏の話をお聴きされており、アンケート結果は、満足度100%だった。これまでビギン半田という音楽講座を雁宿ホールで行っていたが、そこに4回以上来られている方々が7割を占めていた。つまり山本氏のファンの方々ほとんどだった。第2回は弦楽器編を行う。市報10月号で周知をしていく。</p>
9) 各種事業について ② 親子向け観劇会「小学校は宇宙ステーション」	<p>(生涯学習課長)</p> <p>子どもたちにより多くの文化芸術に触れてもらうため、R5年度新規事業として、親子向け観劇会を実施する。もちろん、単なる鑑賞だけでなく、事前にワークショップがあり、本番でプロの舞台に立つために、プロ(劇団うりんこ)から稽古をもらい、公演冒頭に出演してもらう。チケットもお求めしやすい価格設定にしている。こちらも市報10月で周知をしていく。</p>

<p>9) 各種事業について ③まちなかでアート「公園で生演奏ライブ♪」</p>	<p>(生涯学習課長) 昨年度から取り組んでいる「公園での演奏会」である。昨年度は、雁宿公園と七本木池公園 2 か所だったが、今回は花園公園を加え、3 か所で同日ライブを開催する。 ウクレレ・オカリナ・チンドン屋と各公園で異なる音楽を楽しんでいただく。まちなかの身近な場所で音楽に親しんでいただくため、公園で普通に遊ぶ中に +α で BGM としても楽しめる生演奏を提供する。演奏者は市報 8 月号や LINE 等で募集し応募してくれた方々で、いずれも市内で活動されている。各公園とも午前・午後 2 部制で開催する。当日、お近くの公園にぜひお出かけください。</p> <p>(新美委員) 1 回あたりの時間はどの程度か。</p> <p>(生涯学習課長) 20 分程度を予定している。</p>
<p>9) 各種事業について ④「まなびとゼミ」後期受講者募集</p>	<p>(生涯学習課長) GT による講座で、今回は 10 講座を開催する。前期講座とは異なる講師・内容を基本としているが、ヨガについては前期でも人気があり、今回は異なる講師で開催します。あと、トレンドとしては、相続対策で、前期講座でも人気があった。</p>
<p>9) 各種事業について ⑤令和 5 年度後期分講座・イベント情報誌</p>	<p>(生涯学習課長) この情報誌は、GT 講座を始め、市内で行われる予定の各種講座や、イベントなど、今年度後期分の情報を取りまとめたものである。LINE や公共施設などに配付し、市民の方が講座やイベントにご参加いただけるよう P R していく。</p>
<p>9) 各種事業について ⑥令和 5 年度市内区民展等の開催日程</p>	<p>(生涯学習課長) 今年も、各地域で区民展などが予定されている。 日程表については、資料の上段に公民館、下段に区民館等と分け、それぞれに開催日順で掲載している。今年は、10 月 28・29 日の山車まつりのため、いつもと異なる日程で開催する公民館もある。 各地域では、それぞれに趣向を凝らし、日頃の活動の発表の場として作品等の展示が行われる。委員の皆様におかれましては、お出かけいただければと思う。</p>
<p>9) 各種事業について ⑦図書館「ちいさいちいさいおたのしみ会」</p>	<p>(図書館長) 10 月 14 日(土) 午前 11 時から、本館 2 階第 1 会議室にて「ちいさいちいさいおたのしみ会」を開催する。3 歳以下のお子さんとその保護者を対象に、読み聞かせボランティア「あんころもち」の皆さんが絵本の読み聞かせやパネルシアターなどの上演をする。先着 40 名で明日 9 月 21 日から申し込みを受け付ける。</p>

<p>9) 各種事業について ⑧亀崎図書館「オタツシャ音読教室 & 折り紙 2023 神無月」</p>	<p>(図書館長) 10月6日(金) 午前10時30分から、亀崎公民館会議室にて「オタツシャ音読教室 & 折り紙 2023 神無月」を開催する。名作、古典、地域の歴史などの音読と季節の折り紙を楽しんでいただく。対象は60歳以上、先着16名で9月20日本日から申し込みを受け付けている。</p>
<p>9) 各種事業について ⑨亀崎図書館「楽しく食育！ななつ子ねずみのスイートポテトと読み聞かせ」</p>	<p>(図書館長) 10月22日(土) 午後1時30分から、亀崎公民館調理室及び会議室にて「楽しく食育！ななつ子(ご)ねずみのスイートポテトと読み聞かせ」を開催する。健康課の管理栄養士による講話と、絵本「ねずみのいもほり」の読み聞かせ、絵本にちなんだお芋を使ったおやつ作りを組み合わせることで、食育について楽しく学び、読書や図書館に親しんでいただく。対象は3歳から小学1年生までのお子さんとその保護者、定員は5組、1組400円の参加費が必要。10月4日から申し込みを受け付ける。なお、応募多数の場合は抽選となる。</p>
<p>9) 各種事業について ⑩旧中埜家住宅ミニ置き畳をつくらう及び第7回特別公開</p>	<p>(博物館長) 10月22日の日曜日に、「旧中埜家住宅でミニ置き畳をつくらう」という新たな講座を行う。美浜町にて活動されている畳職人の榊原名津枝さんを講師にお招きし、縦15cm、横28cmの小さな置き畳を製作する。畳は、日本の歴史的建造物とともに古くから途絶えることなく伝わる日本の伝統建築技術である。多くの方が畳を遠くに感じつつある現代ですが、この講座を通し、子どもたちや地域の方に、日本の歴史的建造物やそれを護る技術を受け継いでいくことの大切さを伝えられたらと思っている。 11月18日の土曜日と19日の日曜日に、重要文化財旧中埜家住宅の第7回目となる特別公開を開催する。今年は、「折り紙建築と水彩画で見る 歴史ある あいちのたてもの」をテーマに開催する予定である。内容として、まずテーマ展示では、建築家の笈清澄さん、建築史家の村瀬良太さんの楽しい折り紙建築や水彩画とともに、愛知にあるステキな歴史的建造物を親しみやすくご紹介する。関連イベントは、飛び出すカードづくりや参加型トークイベント、建築史家の特別ガイド、桐華家政専門学校さんのファッションショー、ロックミシン体験など例年よりも盛りだくさんの内容となっている。“点を線に”をキーワードに、歴史的建造物やこの場所で行う文化活動の楽しさを伝え、より良いかたちで、人も建物も歴史も繋がっていただけることを感じられるような公開日にしたいと思っている。</p>
<p>9) 各種事業について ⑪「半田市内小学校3年生の博物館見学」</p>	<p>(博物館長) 今年度は、10月12日(木)から12月5日(火)の間に資料に記載の学校の見学が予定されている。この事業は、市内13小学校の3年生児童の皆さんに、郷土学習の一環として見学していただくもので、博物館では、令和元年度に製作した映像ソフト「ふるさと半田を調べてみよう」を活用して半田のまちの学習を行うとともに、常設展</p>

	<p>示室の見学や、米作りの道具を始めわらじ、蓄音機、ダイヤル式の黒電話など、昔の道具について学芸員が解説する。</p>
<p>9) 各種事業について ⑫博物館講座「クリスマスリース作り」</p>	<p>(博物館長)</p> <p>12月3日(日)午後1時より、博物館講座「クリスマスリース作り」を開催する。この講座は、知多半島内でフラワーアレンジメントの講師をされている寺西愛弓氏を講師にお迎えし、参加費として材料費2,800円をいただき、クリスマスリースを制作するもので、クリスマスを前に、自分の好みに合ったクリスマスリースを作成し、ご自宅に飾っていただきたい。</p>
<p>9) 各種事業について ⑬みんなの南吉展の開催</p>	<p>(新美南吉記念館長)</p> <p>これは市立つくし学園をはじめ市内の児童発達支援施設の子どもたちが新美南吉をテーマにアート作品を作って展示するもので、今年で3回目の開催となる。障がい者支援に関わる社会福祉法人、日本福祉大学の関連会社、クラシティなどが中心となり、市としてもつくし学園、生涯学習課、図書館、そして南吉記念館と複数の課が実行委員会に入って関わっている。</p> <p>期間は9月30日から10月9日で、会場はクラシティと赤レンガ建物である。10月1日には生涯学習課による羊毛フェルトでごんぎつねを作るワークショップや、図書館による南吉おはなしコンサートもある。</p> <p>ぜひご来場いただき、皆さんにご紹介いただければと思う。</p> <p>なお、今回は生誕110年を記念し、クラシティや赤レンガでの展示が終わったあと、10月12日から11月26日まで一部の作品を持ってきて、新美南吉記念館でも再展示する。</p>
<p>9) 各種事業について ⑭ごんの秋まつりの開催</p>	<p>(新美南吉記念館長)</p> <p>今年も「ごんの秋まつり」が9月20日から10月4日にかけて開催される。</p> <p>夏の猛暑で開花への影響が心配されたが、順調に芽が出ているので、今週末には見ごろを迎えると思う。</p> <p>コロナの五類移行を受けて今年はかなりの人出が予想される。今年も教育部各課から応援を受けて駐車場の整理にあたり、土日は観光課が運行する周遊バスがアイプラザ半田から出て、記念館駐車場は障害者とバス専用になる。</p>
<p>9) 各種事業について ⑮ハナヒカリプロジェクトの開催</p>	<p>(新美南吉記念館長)</p> <p>ごんの秋まつり期間中のイベントのうち、一番大きなものである。これは青年会議所OBが中心の実行委員会が主催するもので、両日の18時30分から彼岸花をライトアップし、23日の18時には岩滑の山車2輛が記念館の駐車場に入る。またハナヒカリプロジェクトには半田商業高校生も加わっており、23日には高校生が企画したお菓子やパンの販売、キツネのお面に絵付けをするワークショップも行われる。</p> <p>また、同じ23日には例年は岩滑八幡社で行われる彼岸花の結婚式が、今年は南</p>

	<p>吉記念館を会場に商業高校生のプロデュースによる人前式で行われ、そのあと人力車に乗って、矢勝川堤で花嫁行列をする。そこで一緒に歩く巫女姿や着物姿の女性も商業高校生とのことである。</p>
<p>9) 各種事業について ⑯月刊『文藝春秋』11月号巻頭グラビアへの掲載</p>	<p>(新美南吉記念館長)</p> <p>最後に、テレビ放送と雑誌掲載のお知らせをする。</p> <p>本日、ごんの秋祭りが始まったということで、NHK 夕方の情報番組「まるっと」で18時に2分～4分だが、矢勝川の彼岸花と秋祭りについての紹介がある。</p> <p>それから、生誕110年事業が月刊『文藝春秋』11月号で紹介される。『文藝春秋』には「日本の顔」という長年続く巻頭グラビアページがあり、いま発売されている10月号はジャーナリストの田原総一朗さんだが、来月10日発売の11月号では、元NHKアナウンサーの山根基世さんが取り上げられる。</p> <p>山根さんは今回の生誕110年事業で、半田の子供達の朗読指導を担当してくださっていて、前日のリハーサルと発表会当日の様子を『文藝春秋』の記者とカメラマンが取材している。山根さんの記事ですが、半田の子どもたちの様子も出るはずですので、書店で見かけましたら、巻頭頁をご覧ください。</p>
<p>各課事務連絡 1)</p>	<p>(新美南吉記念館長)</p> <p>新美南吉童話賞の募集結果について。</p> <p>9月10日に締め切り、一般の部750編、中学生の部416編、小学生高学年の部57編、低学年の部122編、オマージュ部門222編で合計1,567編だった。</p> <p>1,800編を超えていた昨年、一昨年に比べ減少した。一番の要因はコロナ禍に入ってから毎年まとまった応募をしてくれていた大阪と千葉の私立中学校からの応募が減ったことである。市内小中学校からの応募は例年並みだった。多かったのは、小学校では板山小学校が13編、中学校では成岩中学校35編、青山中学校32編、半田中学校25編である。</p> <p>今後のスケジュールとしては、10月15日に第一次審査会、11月1日に最終審査会を行い、受賞作を決定、11月下旬に発表する。表彰式は、2月17日(土)14時からクラシティホールの予定である。教育委員の皆様への表彰式へのご参加は、コロナ禍の間控えていたが、今年からご案内をお送りするので、ご都合がございましたらぜひご参加ください。</p>
<p>各課事務連絡 2)</p>	<p>(新美南吉記念館長)</p> <p>「新美南吉記念館だより222号」を発行したのでご覧ください。</p> <p>7月の生誕祭、8月の長野ヒデ子講演会の記事、それから東欧ベラルーシの子どもたちが描いた南吉童話の感想画が寄贈されたことなどが出ているので、ご一読ください。</p>
<p>各課事務連絡 3)</p>	<p>(スポーツ課長)</p> <p>以前の定例教育委員会でご報告をさせていただいた「はんだシティマラソン」が、今年</p>

	<p>も 11 月 5 日（日）に開催される。</p> <p>改めてご案内を差し上げるが、教育委員の皆様には開会式と表彰式への出席をお願いしたいと考えているので、ご都合がございましたら、ぜひともよろしくお願ひしたい。</p>
<p>教育委員からの 意見提言等 (1)</p>	<p>(桂委員)</p> <p>3点ある。1点目は、医師会で開催されたロビーコンサートの件。すごく素敵な場所で、たくさんのお客さんが見えて少し驚いたと同時に、すごくいい会が生まれたと感じた。近所に住む母を誘って行ったが、母は、すごくよかったから次は近所の人を誘ってくると言っていた。本日、紹介があった公園でのコンサートもそうだが、今まで関心がなかった人が、本物の文化に触れる機会がいたるところにあるということが、音楽のあるまちづくりに繋がっていると実感した。</p> <p>同じように、例えば、小学校でも大放課などに演奏が聞けたりすると素敵だなと思った。学校へ読み聞かせに行くと、たくさん子どもたちが楽しみにしてくれており、そういうことが学校生活の中で体験できるとすごく豊かだなと思った。</p> <p>2点目は、知多地方教育懇談会に参加して感じたこと。重点項目として ICT や不登校対策など5つ取り組むという話があったが、事例を聞いていると、どの項目においても半田市はすごく先んじて取り組まれているように感じた。教育委員会の皆さんが方向性を決めて、それが学校現場で実践されている結果であり、すごく素敵だなと思った。</p> <p>ただ、その中で気になったのは、以前、堀崎委員が少経験者のサポートが必要という話をされていたが、ここでも、教員になられて1年目から3年目の方の離職率が高くなっているという話があった。実際に、子どもが通う学校などでもそういった話を耳にする。とても残念な話であり、周りの先生方にサポートしてもらいながら、自信を持って子どもたちの前に立てるような仕組みを検討いただきたい。</p> <p>3点目は、これも堀崎委員が以前仰っていた教員採用試験の倍率が低いという話について考えていた。先生になりたいと思う方が増えていくには、現場で先生方が生き生きとしている姿を見てもらうのが一番だとは思いますが、それ以外に何かないだろうかと思ったときに、教育実習に来た学生が、先生になろうと思ってよかったと思う場が増えたらいいのではないかと思った。実習中は授業の準備等で忙しいかもしれないが、先輩の先生方から仕事のやりがいを聞くなど、気軽に話せる機会があると、先生の魅力を感じやすいのではないかと思った。</p> <p>(堀崎委員)</p> <p>3点目の教育実習に来た学生への働きかけについては、学校現場においても同じ思いを持っている。例えば、実習後にも学生ボランティアとして学校に来てもらって、多くの先生方を知ってもらったり、児童生徒の支援に入ってもらったりもしている。ただ、そのように経験を積んで、採用試験に受かってほしい方がなかなか受からないと感じることもある。これについては、学校教育課の指導主事が月に1回開催してくれている、講師や少経験者向けの会で試験対策をやってもらったりしてもいいと思う。</p>

<p>教育委員からの 意見提言等 (2)</p>	<p>(堀崎委員)</p> <p>特別支援に関することについて。いろいろな学校を見て回る中で、知的の特別支援学級において、異なる学年の児童に対して一斉授業をしている学校がいくつかあった。一斉授業が悪いということではないが、もう少し個別に支援できないのかと思う。プリントも従来から使っているものを使っており、ICT化が進んでいるのに生かし切れていないのではないかと思う。</p> <p>知り合いに聞いたところだと、例えば数学では eboard (イーボード) というアプリを使っているそう。公立学校は無料で使え、学習の個別化をサポートしてくれるもの。個々の進度に合った学習の補助として使うなど、ヘルプデスクに相談しながら、充実を図ってほしい。</p> <p>(指導主事)</p> <p>今、個別最適な学びを推進するための AI 搭載の学習ドリルを導入したいと考えている。児童・生徒の学習意欲向上と基礎学力定着の効果が期待でき、小 1 から中 3 まで使えるもの。無料ではないので、予算化が必要となる。</p> <p>(教育長)</p> <p>ありがとうございます。無料のアプリがいろいろ出てきているということは聞いている。情報交換しながら、使えるところで使っていけるといい。</p>
<p>教育委員からの 意見提言等 (3)</p>	<p>(新美委員)</p> <p>先日の教育講演会のこと。今日報告いただいたアンケート結果でも、非常に好評だったことがわかる。この講演の続きで、第 2 回ということは検討されているのか。講師も、時間の都合で今回は伝えられないが、親の対応について秘訣がある、もう一度声をかけてもらえればお伝えできるということを仰っていたと思う。</p> <p>(指導主事)</p> <p>ご指摘のように、講演のアンケートとしては非常に高い満足度であったが、工藤先生も有名な方であり、講師として相応の謝金を予算化しなければならない。校長会や教務会などでも意見を伺い、市としての方向性を定め、どうしていくか検討していきたい。</p>
<p>教育委員からの 意見提言等 (4)</p>	<p>(新美委員)</p> <p>乙川中学校の外構及びグラウンド整備について確認したい。前回の会議で整備完了が令和 6 年 3 月と伺ったが、実際にグラウンドを使用できるのは令和 6 年 4 月からということか。</p> <p>(学校教育課長)</p> <p>工事のすべてが完了するのが 3 月末ということであり、順次完成していく場所もある。ただ、グラウンドがいつ完了だったか正確には覚えておらず、手元にも資料がない。</p>

	<p>(新美委員) 当初の計画では、11 月か 12 月あたりからグラウンドを使用できるようになるとされていた記憶があり、その点を確認したい。土日の利用者から、いつから使えるのかという声を聞いた。</p> <p>(学校教育課長) 資料等を確認し、改めて報告させていただく。</p>
その他	<p>(教育長) 教育委員の皆様の任期は、9 月末とさせていただいているが、今年度については任期満了となる方がいないので、来月からもこの 5 人で継続となる。</p> <p>一方、職務代理者については任期を 1 年としており、桂委員は 9 月末で退任となる。職務代理者は、規則により教育長が指名することとなっているため、10 月からは正村委員を指名させていただく。1 年間、よろしくをお願いします。</p>
次回開催等	<p>(事務局) 10 月定例教育委員会 日時：10 月 19 日（木）10 時 00 分～ 場所：半田市役所 4 階 401 会議室</p> <p>(教育長) 9 月定例教育委員会を終了する。</p>

〈 閉会 12 時 00 分 〉